

令和4年度 評価計画及び自己評価

計画・中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」 夢を描き、自信を持って意 志を伝える力の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 (学校の使命)	小中一貫教育を通して、未来への展望を持ち 「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」 の根っこを育てる。
			〈ビジョン〉 (将来の学校像)	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動や行事が充実し、仲間と学ぶ楽しさがあふれる学園 子どもの夢や希望を生み出し、実現させる学園 地域・社会に貢献する実践的行動力のある学園

c 中期経営目標 を踏まえた現状 (進捗状況)と今 年度の重点	<p>【現状 (○成果●課題)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育を推進する組織体制を築いており、小学校と中学校が共通の目標の下、研究を進めている。 ○ 教科の本質を追究した「考える授業づくり」に向けて組織的な取組を進めている。 ○ 地域における学園の存在意義を教職員・児童生徒・保護者が共有し、地域と一体となった教育活動を目指している。 ● 各学力調査において課題が見られる。 ● 学力調査や公立高等学校入試選抜を見据え、15歳の生徒に身に付けておいてほしい力の向上に向けて小中学校で系統的に進める必要がある。 ● 児童生徒の実態を踏まえ、生活習慣・学習習慣の改善に取り組む必要がある。 <p>上記の現状より、次の5点を今年度の重点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 未来に貢献する「自分を創る」(資質・能力を培う)ための主体的な学びを推進する。(学力の向上) ② 誰もが安全で安心して学べる教育環境を確保する。 ③ 健康で生きがいをもって生涯を生き抜くため、生活習慣の基盤づくりをする。 ④ 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整備する。 ⑤ 小中一貫教育校として新たな価値を創造する学校組織を構築していく。
	<p>育成すべき資質・能力</p> <p>知識・技能(知識及び技能) 思考力・判断力・表現力(思考力、判断力、表現力等) 主体性、協働性(学びに向かう力、人間性)</p>

評価計画(中期経営目標を設定してから①・2・3年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目 標 値	9月			2月		
						i	j	k	i	j	k
						達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価
***	未来に貢献できる 「自分を創る」資 質・能力を育むた め主体的な学びを 推進する。	「考える授業」 づくりを進め、 生徒の学力を向 上させる。 責	<ul style="list-style-type: none"> 警固屋学園授業スタイルでの授業の実践 校内研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 9年生の実力試験の得点の地域平均との差 	+3点						
		自分自身のこと や意見などを、 相手や場面に 応じて分かりやす く伝える力を育 成する。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の 単元ごと、各学期の終了 時に自分自身の取組を記 述させる。 生徒の発表時に、理由 や根拠を言わせたり確認 したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの肯定 的割合 	80%						
**	だれもが安心・安 全な環境で学べる 学校風土を醸成す る。	地域の課題を考 え、地域に貢献 する生徒を育成 する。	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回の防災訓練 を充実させ、当事者意識 等を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練後のアンケートの 当事者意識の項目につ いての肯定的回答の割合 	100%						
		いじめを許さ ず、互いに認め 合うことができ る集団をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一役を意識した集 団づくりの推進 課題への組織的な対応 と体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感についての アンケートの肯定的な回 答の割合 「いじめアンケート」 の肯定的回答の割合 	80%						
		責	基本的な生活習慣 を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、メディア コントロール週間を位置 づけ、メディアの望まし い使い方を習慣化させ る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が設定したメデ ィア使用時間の自己目 標達成率 	70%					
			在校等時間の縮 減	<ul style="list-style-type: none"> 水曜日の定時退校日の 徹底 退校時刻(夏: 18:30、冬:18:00)の徹 底 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間が、 月45時間以内の教職員 の割合 	80%					
*	教職員が自らの意 欲と能力を発揮で きる教育環 境の整備 責	生徒と向き合う 時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用等により 業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とふれあう時間 が確保できている教職 員の割合 	100%						